

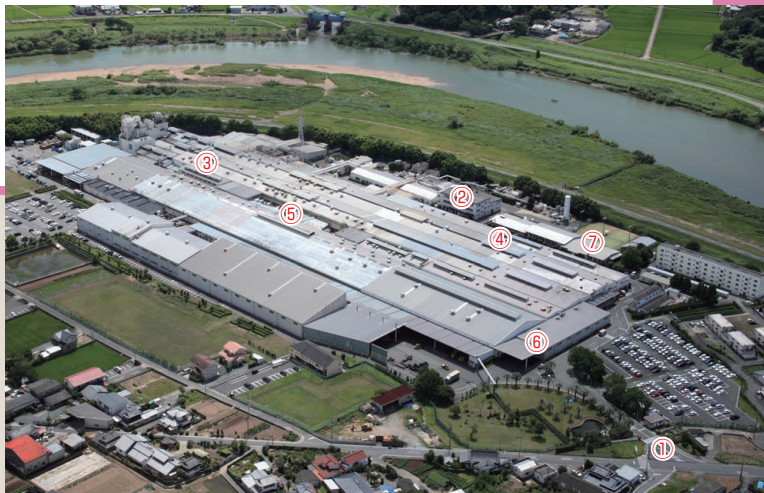
熊本工場

様々な分野で産業発展に貢献する工業資材専門工場

操業開始 1971年10月（化工品工場として2番目、国内工場として10番目に操業開始）

敷地面積 145,000m²

生産品目 ゴムクローラ、高圧ホース、工業用ゴムホース



①正門 ②本事務所 ③精練圧延工程 ④クローラ工程
⑤ホース工程 ⑥製品倉庫 ⑦厚生会館

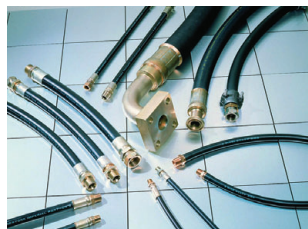
世界に先駆けた商品開発と品種の拡大

熊本工場は、1971年に操業を開始した工場で、当初は各種工業用途向けの繊維補強ゴムホースの生産をしていました。その後、品種を拡大し、現在は建設機械（ブルドーザー・ショベルカー等）に使用されるワイヤーで補強された高圧ホースやオートマチック自動車のトランスミッション等々に使用される自動車用ホース、家庭の温水洗浄便座やシャワーに使用される樹脂ホース等を生産しています。

また、農業機械・建設機械に装着されるゴムクローラも生産しています。このゴムクローラは、ブリヂストンが世界に先駆けてコンバイン（農業機械の一種）用途に開発したのですが、その後ミニショベル等の建設機械用途、他の農業機械用途のゴムクローラが開発され、ホースと共に生産量を拡大し現在に至っています。



ゴムクローラ



高圧ホース

タイヤ・ゴム事業で培った技術を活用

ゴムクローラは、接地面にゴムを使用したクローラで、タイヤ・ゴム事業で培った技術を活用して開発したものです。ゴムクローラは接地面が鉄であるクローラと比較して、路面を傷めることが少なく、また雪上や砂上を走行した際の安定性にも優れるとともに、乗り心地や騒音、メンテナンス性などの面で有利であるという特長があります。

また、高度な技術はホースの生産にも活用されています。たとえば高圧ホースは、高圧に耐えるとともに、高温や繰り返しの使用においても高い耐久性を発揮し、柔軟性にも富む商品です。建設機械などに使用されることで、産業に貢献しています。

安全・防災の徹底と生産性向上への取り組み

熊本工場は、ブリヂストンの開発力・技術力を活かした高性能・高品質な商品を生産しています。生産においては、安全・防災の徹底が不可欠であるとともに、生産性向上を図ることが重要となります。そのため熊本工場では、工程・機械の清掃や、工具類の定置管理といった地道な取り組みを徹底して行っています。加えて、更なる向上を目指して、工場で働く全員が五感を研ぎ澄まし、日々提案活動を実践しています。



環境に配慮した工場を目指して

熊本工場は美しい菊池川の流れと、田園・住宅地に囲まれた豊かな自然の中に立地しています。これらの自然を守るためにも、環境保全は極めて重要な位置づけにあります。地域社会との信頼関係を大切にしながら、環境汚染を未然に防ぐ体制を強化するとともに、「環境にやさしい工場作り」に向けて環境保全レベルの継続的改善に努めています。具体的には環境マネジメントシステム（ISO14001）を通じた環境の継続的改善を基盤に、廃棄物発生量の継続的な削減や廃棄物のリユース、リサイクルの推進などにより、完全ゼロ・エミッションの定着を図っています。あわせて地球温暖化防止の為、省エネルギー活動の推進によりCO₂排出量削減を図っています。また工場や周辺地域の緑化・環境美化を図るボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。



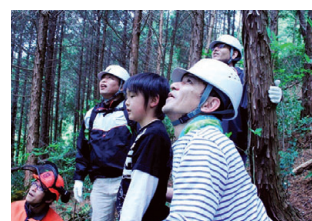
工場周辺清掃活動

地域社会の一員として

操業開始して間もない1975年、地域活性化の一環として 近隣の小学生を対象とした水泳大会「ブリヂストン杯争奪水泳大会」を開催し、以降毎年8月に開催を続けています。現在では地元根付いた歴史ある大会となっており、毎年約250名の小学生が参加しています。また、2011年から山鹿市に「エコピアの森 くまもと in 山鹿」をオープンし、森林整備のボランティア活動などを通して、市民の皆様が親しめる森づくりの推進を図っています。



ブリヂストン杯争奪水泳大会（2011年）



エコピアの森 くまもと in 山鹿

タイヤは車の安全を支える大切なもの

私にもできる、ドライブ前のチェックポイント



空気圧点検

ご存知でしたか、タイヤの空気圧は自然に低下します（1ヶ月で約10～20kPa）。走る前に冷えている状態で定期的（月1回）に点検してください。適正空気圧は車種によって異なります。運転席側のドア附近に貼付された、空気圧表示シールで確認してください。

エアゲージをお持ちでない方は・・・



マークのある販売店では、タイヤの安全点検を実施しております。お気軽にお立ち寄りください。



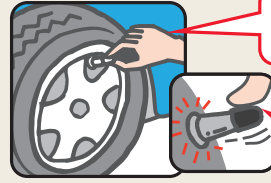
タイヤが冷えているのを確認してから
走行直後はタイヤ、ホイールが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。



エアゲージ
ホイールにあるバルブの口にセットして空気圧の過不足を測ります。



石鹸水
石鹸水をつかって、バルブからの空気の漏れがないか確認します。



バルブキャップ
点検後は、バルブのキャップを忘れがちです。しっかり締め直しましょう。

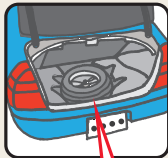
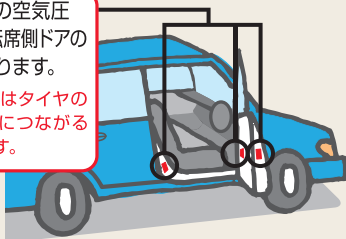
バルブキャップはしっかりと締めよう。

バルブの根元も痛んでいないか空気もれがないかチェック！

●空気圧不足の時は、お近くのタイヤショップかガソリンスタンドなどで充填してください。

メーカー指定の空気圧表示シールは運転席側ドアのこの辺りにあります。

空気圧の過不足はタイヤの性能低下や事故につながるおそれがあります。



スペアタイヤの点検も忘れずに！

チッ素ガスのお勧め

タイヤの空気圧は時間とともに少しずつ低下します。チッ素は空気に比べこの“自然低下”を抑えることができます。

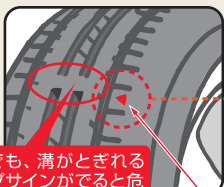
チッ素ガス充填のメリット

- ① 空気圧に比べ、内圧の低下が少ないため、管理がしやすい。
- ② 内圧の低下を抑えることにより、操縦安定性の維持向上、偏摩耗の抑制、燃費の維持に貢献する。



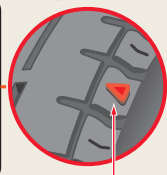
タイヤの外観チェック

これが摩耗の危険サインです！



1ヶ所でも、溝がとぎれるスリップサインがでると危険です

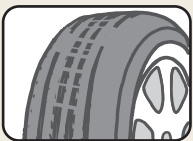
拡大図



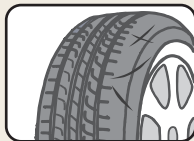
これがスリップサイン表示マークです

残り溝が1.6ミリになる目安としてスリップサインを設けています。スリップサインが1ヶ所でも出ると使用することを法律で規制されています。

タイヤチェック、3つのポイント



① ミズ
すり減ったタイヤの雨の日は、制動距離が伸びて危険。ハイドロプレーニング現象も起こります。



② キズ
小さなキズが大きなバーストを起こす可能性があります。



③ ヒビ
古く劣化してヒビ割れができていないかをチェック。

タイヤの空気圧が適正値より
50kPa(0.5kg/cm²)不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度それぞれ燃費が悪化します。※1

燃費悪化率2%（市街地）、月に1,000km走るとして
燃費＝10km/ℓ、ガソリン代＝146円/ℓ ※2で

なんと ガソリン代 約3,500円/年の損失 ※3

更に CO₂排出量も増加します。

出典 / ※1: (社) 日本自動車工業会

※2: 石油情報センター2007年8月平均レギュラーガソリン単価

※3: (社) 日本自動車工業会のデータに基づきブリヂストンにて試算

当社に関する情報は、下記ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.bridgestone.co.jp>

株式会社ブリヂストン

熊本工場
熊本県玉名市河崎600 〒865-0007
電話 (0968) 74-0111



熊本工場 / JR鹿児島本線 玉名駅下車 タクシー約10分
九州自動車道 菊水ICより約10分